

1. 研究課題名：

黄砂の乳幼児への短期影響—燃焼性大気汚染物質による影響修飾—

2. 研究代表者氏名及び所属：

中山 健夫（京都大学大学院医学研究科）



3. 研究実施期間：平成 27～29 年度

4. 研究の趣旨・概要

「PM2.5 健康被害の懸念大も“謎”多し」（日経新聞）・・・実際の社会生活を営む人間を対象に、健康障害リスクを解明し、科学的根拠に基づく対策を樹立するに資する疫学研究への社会的ニーズが高まっている。我々は「子どもの健康と環境に関する全国調査（エコチル調査）」参加者との良好な協力体制をベースに、黄砂・PM2.5 の乳幼児への短期影響をみる疫学調査を実施する。さらに毎日の粒子状物質の成分分析を行い、エコチル調査で得られる様々な背景因子と照合することにより、粒子状物質各成分や発生源別の影響や各成分のハイリスクグループを検索する。

5. 研究項目及び実施体制

- (1) 黄砂・PM2.5 の乳幼児への短期影響と感受性に関わる因子 （富山大学）
- (2) 燃焼性大気汚染物質の、黄砂の健康影響への修飾 （京都大学）
- (3) 発生源解析と発生源別の健康影響 （鳥取大学）

## 6. 研究のイメージ

